

地理的条件から、近年ではベッドタウンとして人口・世帯数ともに大幅に増加している。

○視察の概要

平成12年の人口2千280人から令和7年の人口は3千328人、実に26年間で1千48人増加している。行政面積は全国最小で、移住住民が村プロジェクトに積極的に参加している。

○委員会所感

奇跡の村と呼ばれ平成初期から人口が倍増している「舟橋村」について、人口増加への取り組みや増加によるメリット・デメリットを幅広くご説明いただいた。成功の最大の要因は立地条件にある。富山市から15分程の場所に位置し、村の行政面積も大きくないため、道路等のインフラ整備への投資も抑えられている。このため、ベッドタウンとしての町づくりには最適

な位置に存在している。また、富山大学との連携、村は口を出さず自主的な活動を見守り支援していくといった内容であった。

本視察の町づくりは、立地条件が大きな要素として成し遂げられていることは明白であるが、町づくりの原点は“人づくり”であり、行政がやりすぎるのではなく、あくまで「住民主導」でさまざまな事業推進を図って



いることや、「子育てファースト」「子育て共助」ということで地域全体として未来を担う子供達を育てる取り組みは、当町としてもその内容は勿論のこと、考え方もしっかりと参考にすべきと強く認識した。

※なお、紙面の都合により説明等の一部を省略しています。

## ふるさと会交流及び姉妹都市親善訪問レポート

令和7年10月18日西議長を団長に外議員3名で、小平町を出発し、お昼過ぎには羽田空港に無事到着しました。その後、14時半頃から町長と合流し「第21回東京おびら会」に出席させて頂き、黒澤会長をはじめ当町出身会員の方々と故郷の思い出話に花を咲かせ小平町の近況報告や特産品のPRをしながら、会員の皆様方と意見交換を通じ親交を深めてきたところであります。

また、翌日の19日はあいにくの空模様ではありましたが、「第47回小平市民まつり」に町長をはじめ西議長と共に訪問団全員で参加し、パレード行進及び特産品販売を行いながら、市民並びに関係者と友好の絆を深めました。さらに夕刻の交流会には小平市の小林市長をはじめ野崎実行委員長らと、今後の小平市と小平町の新たな交流についても懇談がなされ、親交を深めたところであります。

